

ひらつか健康・食育プラン21（素案）意見一覧表（案）

資料1

番号	提出方法	健康増進・食育共通	健康増進計画	食育計画	計画への対応	該当箇所	御意見・質問	回答・市の考え方(案)	担当課
1	直接		○		ウ:その他	P27 ③青年期・壮年期・高齢期 男性・女性の飲酒頻度の割合 (令和4年度)	この調査に回答した人数は何人が	実態調査人数は3,000人で、有効回収数は1,060件(35.4%)です。このうち、飲酒に関する調査は20歳以上の1,042人が回答しています。	健康課
2	直接		○		ウ:その他	P29 男性・女性の年代別喫煙者の割合	①この調査に回答した人数は何人が ②平成26年度男性の60代が突出しているのはなぜか。 ③平成26年度女性の30・60代の割合が高いのはなぜか。 ④令和4年度男性の20～50代で割合が増えた理由は？	・実態調査人数は、平成26年度は3,000人(20歳以上)で、有効回収数は1,334件(44.5%)です。このうち、男性596人、女性728人、その他10人です。令和4年度の回答人数は、上記1と同様です。 ・平成26年度の調査で男女の60代の割合が高いのは、健康増進法改正前で職場や店舗内で禁煙が義務付けられていない等の環境的要因やニコチンの依存性等で禁煙ができずに続いてしまっていることが考えられます。また、30代の女性は、同居するパートナーも喫煙者であったり、ライフステージの特徴として、就労や子育てなど活動的な時期でストレスが多い等が考えられます。 ・若い世代の割合が高くなっているのは、2013年(平成25年)から販売された加熱式たばこの急速な普及が考えられます。加熱式たばこは、紙巻きたばこより健康への影響が少ないという期待から若い世代に使用者が多い傾向にあります。	健康課
3	メール	○			ア:反映	・概要版P2 4 平塚市健康増進計画(第2期)と第2次平塚市食育推進計画からみる主な現状と課題 肥満者の割合 ・概要版P4 6 市の取組 食育推進計画 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進 朝食を食べることや、栄養バランスに配慮した食事 ・概要版P.4 市の取組 食育推進計画	【要約】 ・「肥満予防に取り組む必要がある」とあるが、「糖分とり過ぎの注意喚起」を行っていないのはなぜか。塩分制限は厳しく指導するのに対し、糖分に対して記載がないのはバランスが取れていないように思う。 ・朝食を食べるのが良い事に誤った受け取り方をされてしまいがちですが、1日2食や1食がちょうどよいという人もいて様々である。 栄養も、塩分制限を謳い、むしろ制限した方が良いと思われる糖分制限の記載がないのはバランスを欠いている。一人ひとりの消費エネルギーと摂取エネルギーのバランスを考えていく方がすべての人にとって最善策である。 ・食事の形態は人それぞれであり、すべてを同じにしようとすると無理があるのではないかと。個々の状況に合わせてという考え方が最善策と思われる。	【反映箇所】 概要版P2には、前計画の評価からみる主な本市の現状と課題を掲載しており、「ひらつか健康・食育プラン21(第3次平塚市健康増進計画・第3次平塚市食育推進計画)」の全体像を示しているものではございません。 ご指摘のとおり、健康増進や食育推進は食生活に関することだけではなく、様々な個々に応じた望ましい生活習慣の実現を通じ健康寿命の延伸を図ることを目標とし、基本理念を「市民一人一人が生涯にわたり健やかで心豊かに生活できるよう全世代を通じて継続的に行われる健康づくり・食育の推進」と定め、概要版P4の6に示す施策分野を総合的に進めてまいります。 また、ご指摘の内容を参考とし、市民により丁寧な説明を示すこととして、計画素案P46「生活習慣の改善にむけた健康行動と取組内容」のあとに、リード文を追加、計画素案P47(1)栄養・食生活②主な現状と課題の項目を追加記載しました。	健康課 保健年金課
4	メール	○			イ:参考	・概要版P2 4 平塚市健康増進計画(第2期)と第2次平塚市食育推進計画からみる主な現状と課題 塩分をとり過ぎないように心掛けている者の割合 ・概要版P3 現状と課題 生活習慣病(高血圧等)の発症予防・重症化予防 ・計画素案P32 【参考】減塩と血圧について	【要約】 ・高血圧発症の要因を塩分と決めつけるような表現は再考したほうがよいと厚生労働省に自治体から提案するとよい。 高血圧予防のための生活習慣というのは塩分制限のことか。生活習慣や服薬だけでなく、多角的に見て再考する方がよい。 ・日本高血圧学会のガイドラインは参考にしているが、一人一人の体質体調食生活環境等に合わせた、こまやかな食事のアドバイスができる人材が求められていると思う。	高血圧の発症・重症化予防をするための取組は、科学的根拠に基づいて記載されているガイドライン等を参考に一般的な普及啓発を行うとともに、市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組も引き続き推進してまいります。	健康課 保険年金課
5	メール	○			イ:参考	概要版P2 現状と課題 検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療の継続	薬に頼らず自分の体は自分で管理できるように自己啓発も望まれると思う。	高血圧の発症・重症化予防をするための取組は、全体に対して一般的な普及啓発を行うとともに、市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組みも引き続き推進してまいります。	健康課 保険年金課

ひらつか健康・食育プラン21（素案）意見一覧表（案）

資料1

番号	提出方法	健康増進・食育共通	健康増進計画	食育計画	計画への対応	該当箇所	御意見・質問	回答・市の考え方(案)	担当課
6	メール	○			イ:参考	概要版P2 オーラルフレイル	①日本語表記で分かりやすい表現にしてみたい。 理由: ・高齢者が該当することが多いと思われること、日本語表記の ほうが万人にわかりやすく浸透しやすいと思われる。 ・2014年から提唱されているにもかかわらず、10年たってもほと んどの方が知らないことから日本語表記が望ましい。 ②日本語表記やキャッチコピーを公募する等広く市民にアピール することもできると考える。	オーラルフレイルの概念は、2015年に厚生労働省の研究事業で、身体の衰え (フレイル)の一つとして提唱され、その後日本歯科医師会や日本老年医学会等 でも「オーラルフレイル」の名称で活用されています。 ご意見のとおり、カタカナ表記よりも日本語表記のほうが分かりやすいという考 えもありますが、平塚市では、国や県、歯科医師会、学会等と同様に「オーラルフ レイル」の名称で市民の皆様の認知度を高め、「食(口腔)」「運動」「社会参加」を 軸としたフレイル予防を推進していきたいと考えます。また具体的な周知方法に ついては参考させていただきます。	健康課 保険年金課
7	メール		○		イ:参考	概要版P3 健康増進計画 の取組 生活習慣病の発症予防・ 重症化予防の取組「がん」  概要版P4 市の取組 生活習慣病の発症予防・ 重症化予防「がん」	【要約】 ①がんの原因となる生活習慣は何か ②人類初の遺伝子ワクチンである新型コロナワクチンと急激な癌 (ターボ癌)との関係が予想されるが、厚生労働省や国では未だ に検証されていない。そこで、ターボ癌の発症を減らすため、平 塚市が因果関係が確定するまでは、世界の状況等も参考にしつ つ十分な検証をしていくことが求められていると思う。  【要約】 ③予防可能ながんのリスク要因として、禁煙者が増えた現在で も、ガン患者が増えている。より良い食事を摂ることも重要である が、添加物や加工食品を減らしていくことも必要かもしれない。何 事もバランスが大切だと考える。	予防可能ながんのリスク要因として、感染、喫煙(受動喫煙を含む)、飲酒、身 体活動の不足、肥満・やせ、野菜・果物不足、塩分の過剰摂取等、生活習慣に関 連するものがあります。健康づくりの取組として、これらに対する対策を行って いくことで、がんの罹患率減少を図ります。また、各種がん検診の受診率の向上に 取り組み、国等が進める科学的根拠に基づいたがんリスク評価、がん予防ガイドラ ン等を注視していきます。 新型コロナワクチンと癌との関連については、厚生労働省の動向を引き続き注 視します。	健康課(健康づ くり担当・予防担 当・ワクチン担 当)
8	メール	○			イ:参考	計画素案P32 【参考】減塩と血圧について	【要約】 ① 英国の医学雑誌では、血圧140mmHgの人が減塩しても収 縮期血圧で3.6mmHg、拡張期血圧で1.6mmHg下がるだけと記載さ れている。また、臨床医によると、減塩によるメリットより、塩分と 水分の不足による脱水による、虚血性心疾患、熱中症等の疾病 発症のリスクのほうが高いといわれている。	脳血管疾患などの発症リスクとなる脱水や高血圧の予防について科学的根拠 に基づいて記載されているガイドライン等を参考に対策を進めてまいります。	健康課 保険年金課
9	メール	○			イ:参考	計画素案P32 【参考】減塩と血圧について	【要約】 子どもが高齢になった時のことを考えて、ミネラルたっぷりの塩分 (天然塩)を子どものうちから摂らないようにしておくというのはい かがなものか。塩分制限は本当に必要なものなのか否か、一人 ひとりで違ってくる。	高血圧等生活習慣病の発症・重症化予防をするための取組は、科学的根拠に基 づいて記載されているガイドライン等を参考に一般的な普及啓発を行うとともに、 市民一人一人が適切な生活習慣を自己管理できるように個別の取組も引き続き 推進してまいります。	健康課
10	メール			○	ア:反映	概要版P4 食育推進計画 地域の特性を活かした食 育の推進	食に対する感謝する「気落ち」と記載されています。	「気持ち」に修正します。	健康課
11	メール			○	ア:反映	概要版P4 食育推進計画 地域の特性を活かした食 育の推進	・協同する住民組織とは具体的にどのようなものか。 ・農家さん、食品メーカー、畜産業、漁業、専門家、行政、国、市 民が協力し合い大きな視点で見ていく事が解決の近道と思われ る。	計画素案P71「第6章 横断的な取組 1市民との協働・産学官連携による健 康づくり・食育の推進」では、健康づくりや食育の取組は幅広い分野にわたる関 係者が、その特性や能力を活かしつつ、主体的に、かつ、互いに連携・協働して いくこととしています。これらの取組については、「平塚市食育推進会議条例」に より設置された「平塚市食育推進会議」において各分野の食育に関わる専門家 や市民委員により推進の進捗管理を行います。	健康課
12	メール			○	イ:参考	概要版P4 食育推進計画 地域の特性を活かした食 育の推進	・地産のものをより自然で安全安心なオーガニックを主にしたもの を市民(特に子どもたち)へ提供していく事を最優先で考えてほし い。	農林水産省が令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」において、有 機農業の取組面積の割合を拡大するよう位置づけられています。 また、従来より本市で取り組まれてきた農業とのバランスを図ることが重要だと考 えています。ご意見を参考とし、事業の充実を図ってまいります。	農水産課